

ミトヨノヒトコマ ハイライト

3月18日(日)に行われた第2回三豊市うらしまマラソン大会。今回も900人を超えるランナーが参加し、みとよの景色を眺められる海岸沿いのコースを駆け抜けました。



1. 号砲とともに勢いよくスタートを切るランナーたち 2. 地域の人々によるボランティアがレースをサポート 3. 沿道からは温かい声援が送られました 4. 多くの小学生が参加した1.5kmの部 5. ラストサポート! 力を出し切って 6. 津嶋神社の側を走るコース。カメラを向けると笑顔で応えてくれました

優勝者一覧

※敬称略

部門	氏名	タイム
20km一般男子	村田 誠児	1:09:28
20km一般女子	篠丸 里佳	1:27:33
10km一般男子	野中 健史	32:56
10km中学生男子	福家 拓	35:31
10km一般女子	前田 春香	39:08
10km中学生女子	渡辺 顕聖	38:30
1.5km小学生男子(高学年)	柳生 琥珀	04:47
1.5km小学生男子(低学年)	山岡 来雅	06:04
1.5km小学生女子(高学年)	本田 彩実	05:32
1.5km小学生女子(低学年)	寺嶋 心音	06:18



一生懸命走って、完走できました!

はじめまして

地域おこし協力隊に 石井優香さん

地域おこし協力隊とは、人口減少や高齢化などが進行する地方において、地域外(都市圏)の人材を受け入れ、地域協力活動を行ってもらうことで、地域力の維持・強化を図りながら、同時に隊員の移住・定住につなげることを目的とした制度です。市は、この制度を利用して、4月から神奈川県横浜市出身の石井優香さんを地域おこし協力隊

として採用しました。チャージングな明るい笑顔とオープンな雰囲気、誰とでもすぐに打ち解けられる魅力を持つ石井さん。三豊市に来て抱いた印象と今後の抱負を聞きました。

夢だった四国への移住 自然豊かで人の温かい三豊へ

大学生の頃から、「いつかは四国に移住したい」という思いを持っていた石井さん。卒業後に香川へ旅行した際には、穏やかな気候と人の温かさに惹かれ「憧れが強まった」と言います。その後、3年間は横浜市でパティシエとしての経験を積みました。また、学童を対象にした食育の活動にも従事。移住に向かって進み出したのは、今年に入ってからでした。情報収集をする中で、地域おこし協力隊という制度を知り、1月に東京で開催された協力隊募集説明会に参加。

「三豊市から説明に来ていた人たちが温かかったこと。おいしいフルーツが多いこと。古民家を活用した取り組みがあること。さまざまな魅力を知って、地域おこし協力隊として三豊市で頑張ることを決めました」

ワクワク感でいっぱい 自ら行動を起こしていきたい

地域おこし協力隊となった石井さんは、今後、山本・財田地域を中心に地元の人々と交流しながら、地域の活性化を目指す活動に取り組んでいきます。「まだ三豊に来て間もないですが、皆さん優しく、気さくに声をかけてくれます。今後は地域の方々とアイデアを出し合っ、若い人を呼び込むための活動をしていきたいと思っています」

早速、石井さんの頭の中には、次々とおもしろい構想が浮かんでいるよう。

「パティシエの経験と三豊のフルーツを生かして、全国に発信できるお土産づくりをしたいです。他にも、豊かな自然を利用した観光プランも売り出していきたいです。山本や財田のいいところを伝えていけるように、自分からどんどん動いていきたいと思っています」

まずは三豊のことを知り、いずれば地域の人と人を結びつける役割も果たしたいと、活動に対する意気込みは十分です。今後、どのようにアイデアが実現されていくのか、楽しみです



Yuka Ishii

神奈川県横浜市出身。大学では食物科学を専攻し、食育や子どもの貧困に興味を持つ。卒業後はパティシエの道へ。アレルギー対応のお菓子作りにも取り組む。将来は古民家に住むことが夢。

活動の最新情報はコチラでチェック!

f 「香川県三豊市地域おこし協力隊」で検索

ig 「mitoyo.okoshi」で検索



▲現在の活動拠点は、田園都市推進課。「皆さんからのアイデアのご提案をお待ちしています!」



▲ 誰の丞まつりでは、スタッフとして参加しました。まずは各地で行われるイベントへ出向いていきます



▲本格的な活動を前に市長表敬。「思いっきり挑戦してくださいね」と、激励を受けました

▶問い合わせ 田園都市推進課 ☎73-3011